

## 土砂災害について

須賀川市立長沼中学校 2年 高久陽海

雨。私達からすれば草木を育て、大地を潤してくれる大切なものです。でも、それが多量になると災害を引きおこし、私達をまきこむと大変な事がおきてしまいます。

私はテレビなどでしか土砂災害に関する事を見た事はありません。それに今までは、土砂災害とはどういう事なのか、あまりよく理解が出来ていませんでした。

でも、調べてみると、土砂災害とは大雨などの後に土石流や、がけ崩れ、地すべりなどを指すという事が分かりました。最近では集中豪雨の回数が増えていてそれに伴い、土砂災害も増加しています。

一瞬にして全てがのみこまれてしまう土砂災害にはいろいろな注意が必要なが分かりました。日本は降水量が多く山がたくさんあるために、一次災害だけでなく二次災害をひき起こす可能性もあります。

今までに起きた災害事例では1982年の長崎豪雨災害で121人のうち90パーセントの人が土砂災害の犠牲になりました。地震で、斜面がゆるむとがけ崩れがおこりやすくなり、最近では新潟中越地震でも、がけ崩れで死亡した人が多くでました。また、ここ三年間では全国で117名の人が犠牲になっているそうです。それを考えると土砂災害とはとても恐ろしく、怖いものだと分かります。

家族や友達や大切な人を土砂災害などの災害で失いたくはありません。また、今まで大切にしていた宝物、アルバム、思い出の本、自分が今、住んでいる家、毎日通っている学校。全てのものを失ってしまうことになります。それを失ってしまう悲しみは私が思っている以上に、そうとう大きなものだと思えます。

だからこそ私達は、土砂災害の被害を、最小限にへらすよう、大切な命がこれ以上失われないう、考えなければなりません。一人一人が、土砂災害の恐怖にさらされることなく、ふつうの生活が送れるようになってほしいと思えます。

では、どうしたら災害は少なくなるのでしょうか。最近ではいろんなお店でも地震による災害や、土砂災害が起きたときに活用するグッズをよく見かけます。

でも、私達に出来る事はまだまだあり、グッズを買っておく事だけではありません。例えば木の伐採により山肌が顔を出してそこに雨が降ると土がゆるみ、災害へと進んでしまうのです。また私たちにも出来る事はたくさんあると思ひ調べてみました。すると、身の周りの危険箇所をきちんとおさえておくことが大切だとわかりました。福島県は災害が少ない県だと言われてはいますが、私が住んでいる須賀川市だけでも、400ヶ所ほど土砂災害危険箇所があります。また、気象予報をしっかりとチェックしておくことも私達に出来る一つの方法といえるのではないのでしょうか。またチェックだけでなく避難場所を確認しておく事でいざというときにすぐ行動できると思えます。それに、災害の前ぶれを知っておく事も大切です。例えば、がけ崩れの前ぶれは家の周りの樹木が揺れたり傾いたりして知らせてくれます。家近くにがけがある人は小石がパラパラおちてきたり、斜面から水がわきでてきたり、斜面にひび割れができていのに早く気付けるはずです。でも、つねにこんな現象と同じ前ぶれが見られるわけではありません。こうした経過をへる事なく、一挙にがけ崩れが発生する場合もあります。だからこそ常に危機感を持ち大雨や地表の変化に注意しなければなりません。

大切なものや、命を守るために安全に避難することはもちろんのこと、住民と行政が

協力し合ってがけ崩れや、地すべり等を防ぐ施設をつくっていくことも大事だと分かります。

土砂災害を初めとする自然災害は私達の想像以上に恐ろしいものです。どうすれば防ぐことができるか常に念頭に置き私達が安全に住める豊かな町作りを心掛けなくてはならないと思います。一人一人が災害についてきちんと向き合い、考える事がもっとも大切です。自然災害を最小限に減らせるよう日々のちょっとした気づきと行動が、とても重要だと学ぶことができました。